

# 天文教育

# 7

2020

*Japanese Society for Education and Popularization of Astronomy*



〈集中連載〉国際教員研修プログラム NASE

〈投稿〉手作り簡易分光器の改良／大学生の天文に対するイメージ  
調査／アルティプラーノで南天の星空に出会う

〈その他〉代議員および会長候補・監事候補者選挙結果の報告

## 本誌原稿募集のお知らせ

編集部では下記の原稿を募集しております。会員の皆様からの活発なご投稿をお待ちしております。なお原稿の投稿は、編集部から依頼した場合を除き、原則として当会会員の方に限らせていただきます(共同執筆者に会員を含む場合はこの限りではありませんが、投稿は会員の方からお願いいたします)。

1. **原著論文**：天文教育・普及について、オリジナル性があり考察が優れ、学術論文として主な内容が印刷発表されていないもの。表題、アブストラクト(要旨)には英文も付けてください(英文は審査通過後に追加も可)。
2. **解説記事**：天文学や天文教育・普及に関する解説・紹介記事や、さまざまな天文教育や社会教育などの実践記事。分量は刷り上がりで6~10ページ程度。
3. **各種の報告など**：支部会やワーキンググループの活動報告、各種のイベントの報告など。分量は刷り上がりで2~4ページ程度。
4. **書評**：天文学や天文教育・普及に関する書籍の紹介。分量は刷り上がりで1~2ページ程度。
5. **会員の声**：会員の皆様からのご意見・ご感想など。分量は刷り上がりで1ページ程度。
6. **表紙の写真**：タイトルと400字以内の「表紙の言葉」とともにご投稿ください(写真のみでも構いません)。
7. **情報コーナー(各種会合・イベントの告知など)**：支部会やワーキンググループの会合、また天文学に関する各種の会合・イベントなどの情報。分量は任意ですが、スペースの関係で適宜省略させていただく場合があります。会合・イベントの開催日と会誌の発行日(奇数月下旬)にご留意ください。

・**締め切り**：1は随時受け付け、2~7は偶数月(発行の前月)15日です。投稿先は [post@tenkyo.net](mailto:post@tenkyo.net) です。

・本誌に掲載された記事は、1年後以降に当会 Web サイトにて pdf ファイルの形で一般に公開することを予定しております。インターネットでの公開に差し障りのある場合は、ご投稿の際にその旨ご連絡ください。

・**広告掲載**を希望される方は事務局 ([jimu@tenkyo.net](mailto:jimu@tenkyo.net)) までお申込みください。掲載料は B5 判 1 ページ ¥20,000、半ページ ¥12,000、1/4 ページ ¥7,000、チラシの折り込み ¥20,000 です。

### 【編集委員会からのお願い】

『天文教育』の編集は、すべて会員からなる編集委員によって行なわれています。ご投稿の際には以下の点についてご協力いただけますよう宜しくお願いいたします。

- ・原稿の投稿は、原則として Microsoft Word ファイルでお願いします。
- ・執筆用のテンプレートが当会 Web サイト (<https://tenkyo.net/>) からダウンロードできます。できるだけこのテンプレートをご利用くださるようお願いいたします。執筆上の留意点なども記しています。
- ・十分に推敲を重ねた完全原稿でご提出ください。分量や内容によっては手直しいただく場合もあります。
- ・提出データは必ず各自でバックアップしておいてください。
- ・Word 以外に一太郎ファイルやテキストファイルでも受け付けております。
- ・原稿のご投稿やご質問は電子メールにて、下記のアドレスへお願いいたします。

投稿先・質問先 メールアドレス：[post@tenkyo.net](mailto:post@tenkyo.net)

## 表紙の言葉

### 夏至の部分日食

2020年6月21日16時07分より4分間隔の画像を比較明合成した写真、Canon EOS5D Mk III EF16-35mm F2.8L II USM ヤセの断崖(石川県羽咋郡志賀町笹波)。撮影・解説：大西浩次

今年2020年6月21日、夏至の日の夕方に大きな部分日食が起きた。これはアフリカからアジアへの帯状の領域で起きた金環日食に伴う部分日食だった。ちょうど、台湾での金環日食の観測を計画していた方も多かったのではないだろうか。残念ながら新型コロナウイルス感染症の蔓延で、渡航出来なくなってしまった。ところで、前回、日本で見られた大きな部分日食は、2012年5月21日の朝の日本を横断する金環日食に伴う部分日食だった。この時、皆さんは金環日食をどのように迎えられていたのだろうか。

さて、今回の部分日食は、夕方の16時ごろから始まり、17時過ぎに最大食分、18時過ぎに終わるという時間帯だった。撮影として2つのパターンを構想していた。一つは、標高2000m付近から3000m級の山頂に、ほぼ食分が最大で没する光景、もう一つが、海原に輝きながら沈んでゆく夕日までの連続撮影。あいにく、梅雨の不安定な天候の中、長野での撮影をあきらめて能登半島へ出かけること。場所は、松本清張の小説「ゼロの焦点」で有名になったヤセの断崖と呼ばれる崖の上。撮影中に多くの人が群がるのではないかと期待(不安)から、数多くの日食めがねを用意するも、予想外に、日本海に輝く日食の全行程をひとり占めすることが出来たのだった。

ところで、次回、日本各地で見られる大きな部分日食は、2030年6月1日の北海道金環日食だ。まだ、10年、でも、あとわずか10年。8年前の金環日食の宿題も含めて今から準備をスタートしたい。